

楽々亭通信

発行：NPO法人没イチの会・京都



一月の楽々亭を

開催いたしました



「命日が誕生日」

本願寺派布教使

安堂芳雅

一月九日、母は極楽浄土に還らせていただきました。

お葬儀が終わって皆さん、「お淋しいでしょう。」と言ってくださるのですが、——親を送るのは子の役目——とずっと聞かされていた私は淋しいというより、「ほっと」したというのが正直な気持ちです。淋しさはこれから折々にやってくるのでしょうか。

母は、良くも悪くも昭和一代生まれの強い人でした。晩年は、「あんたらのオ

ムツは私が換えたんやから、私のオムツは三人に換えてもらう。そのつもりでいなさい」と言っていました。けれど、私たちに自分のオムツを替えさせないうちに、この世のいのちを終えて逝きました。

今回タイトルにあげた、

「命日が誕生日」は、母がよくしていたもので、何十回も聞かされた話です。その時は「またこの話か！」と思ってきましたが、聞いていて本当によかった。

きっと母は、私に聞かせるために何度もこのお説教をしていたに違いありません。

聞かせてもらったおかげで、これから私にやってくるだろう淋しさは悲しみを連れてくることはな

く、母の往生は、淋しいけれど、悲しくはないご縁となりました。

■み仏とともに

阿弥陀さまは、「南無阿弥陀仏の声の姿となり、

あなたを抱き、護り、この

世の縁が尽きた時、必ず

極楽浄土に連れて還る」

とお誓い下さいました。

母は、「南無阿弥陀仏

は、私を絶対に離さんと、

抱き護ってくださいとる

仏さまじゃからのう」と

味わっていました。た

だ今、抱きとり、護って

下さっている仏さまが、

決して捨てられないので

すから、私たちは何時、

どこ

何処でどのようにいのち

終えようと、阿弥陀さ

まが極楽浄土に連れ帰っ

て、仏に生れさせていた

だけのです。

そして、この世のいのち

が終わった時、呼吸が止まった時、即座に浄土の仏に生まれさせるといふ阿弥陀さまのはたらきの中にあることを、「この世の命日は、お浄土の仏さまに生まれる日、誕生日」だと話していました。

ご縁ある方々に寒い中、

通夜・葬儀に足を運ばせ、

手を合わせお念仏申し、お

経を聞かせたのは、仏さま

に生まれた母のはたらき

でした。

「どんなことがあるう

と、いのち終えるその時

に、極楽浄土の仏に生れさ

せる。」という阿弥陀さま

の願いは、死が目前に迫っ

てもびくともしない世界

を開いてゆくのです。

■ある死刑囚の話(東井義雄先生)

若くして死刑囚として処刑された一人の男性の話です。

彼は、小学校、中学校と出来が悪く、学校を出るとすぐに少年院に送られました。その後は刑務所に入ったり、出たりを何度も繰り返したようです。

そして、とうとう死刑囚として投獄されました。

拘留所の教誨師さんと

時間を共にする中で、彼は

自分のいのちにかけられ

た阿弥陀さまの深い願い

に出会い、生き方が大きく

変わってゆきました。

しかし、最後の日(刑執行日)がきました。

その日はお別れの式があり、式が終わった時に拘留所長さんが一本の煙草を差し出します。大抵の死刑囚の方はその一本を、ゆつくりゆつくり、できるだけ時間をかけてゆつくり吸おうとするそうです。

しかし、どんなにゆつくり吸っても、すべてが灰になつて地に落ちる時がやってきます。その時「それでは」といので、カーテ

ンの向こうの階段を昇っていくのです。

彼も最後の煙草をもらう時を迎えてしまいました。

ところが、受けとらなかつたのです。

「所長さん、久しぶりの煙草、誠にありがとうございます。けれど久しぶりの煙草で頭がぼんやりしておりましては、せっかく尊い世界に生まれさせていただくのにも、申し訳ございません。せっかくですが……。」と、煙草を断って、係官の方が感動されるような足取りで階段を昇り、最期を遂げられたということです。

必ず極楽浄土の仏に生れさせるといふ願いがかけられたのちを生きてゆかれたのです。



初恋

どうしてそんな大きな袋を背負っているのですか？

中身は何ですか、過去の経験ですか、

沢山の経験を詰め込んで、重たくて、

それで、一歩前に進めないで居るのですか。

一度袋の中身を整理してみませんか、

案外要らない物や、賞味期限の過ぎたものが有るかもしれませんか、

そんなモノがあれば、思い切つて捨ててみませんか、

袋が軽くなり、一歩も二歩も前に歩き出せるかもしれませぬ、

又、新しいものが沢山入ってくるかも知れませぬ、

私は捨て過ぎて、高校時代まで戻ってしまいました。

又、初恋が出来るかも！

籠谷 弘



楽々亭 2月の予定

2月 7日 (水)

西京区役所洛西支所第三会議室

午前10～12時

楽々亭通信

発行元：NPO法人 没イチの会・京都

住所：京都市西京区大枝北沓掛町一丁目5番地2-406

TEL：075-874-5320 FAX：075-874-5328

MAIL：kago@botuichi.com

●楽々亭通信では、皆様の投稿を募集しております。身の回りの出来事や体験談など、何でも結構です。楽しかったこと、つらい想いをしたことなど、様々な胸の内を皆様と共有して行きたいと考えております。